

2011年度・平成23年度

くずは青葉幼稚園

自己評価・学校評価



2012年4月

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

P	標 題
2	はじめに幼稚園（学校）評価の目的・学校評価に関する規定]
3	学校評価並びに自己評価結果の公開
3	1. 本園の教育目標並びに2011年度・平成23年度教育指針の設定について
3	年長学年・5歳児
5	年中学年・4歳児
7	年少学年・3歳児
9	幼稚園全体・全学年
10	各学級 学級経営案
11	2. 平成23年度に重点的に取り組んだ教育内容
11	3. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況
12	教員 自己評価 詳細
12	A 教育方針・指導計画 B 健康
13	C 環境 D 言葉 E 人間関係
14	F 人間関係 G 研修 H 家庭との連携
14	I 安全・衛生・危機管理
15	園長・主任 自己評価
15	J 教育内容〔教育課程・研修・環境構成・行事〕
15	K 保護者支援
16	K 保護者支援

P	標 題
16	L 地域連携 M 財務管理 N 安全管理
17	O 人事管理
18	幼稚園運営の自己評価
18	幼稚園教育の基本方針と組織
18	保育内容の確認〔幼稚園全体〕
19	保育内容の確認〔教員〕
20	研修と研究
21	保護者との関係
21	幼稚園機能の拡大
22	幼稚園管理に関する自己評価
22	安全点検
23	緒法規の遵守
24	リスク対応
24	適正な事務処理
25	食事
25	4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
26	5. 今後取り組むべき課題
26	6. 学校関係者の評価
28	7. 財務状況

はじめに

幼稚園における学校評価については、平成14年4月に施行された幼稚園設置基準において、自己評価の実施とその結果の公表に努め、保護者等に対する情報提供を積極的に行うこととされた。既に本園ではこれを受け、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施し、教育水準の質の向上を図ってきた所である。続いて平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられた。これを受け平成21年度より、「学校評価（並びに自己評価）」の公表（平成20年度版）を実施。続けて平成22年度以降において公開している。今般、平成23年度における「学校評価（自己評価）」について、これを公開するものとする。（2012年4月公開）このことにより、私立幼稚園としての「学校評価」のねらい、併せて学校評価における指摘事項や意見を反映し、教育目標の達成できるよう努力研鑽に励むところである。

幼稚園（学校）評価の目的と学校評価に関する規定

本園において、これまで「選ばれる私立幼稚園」として、幼稚園案内や説明会さらに広報活動（HPの活用等）を通じて継続的にまた積極的に情報提供を行ってきた。そして「建学の精神」のもと本園の保育・教育活動を公の教育を担う学校として実践してきた。今後は、これまでの取り組みや反省を基に自らの理念や実践が独善的になることのないよう学校評価・自己評価の公開に取り組み、質の高い幼児教育が提供できるように努める。

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条～第68条（幼稚園については、第39条により準用）により以下の項目を公開する。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表。
- ・学校関係者による評価を行うとともにその結果を公表するよう努める。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者（学校法人山口学園理事会）に報告。

学校評価並びに自己評価結果の公開

1. 本園の教育目標並びに2011年度・平成23年度教育指針の設定について

本園は、幼児の「心身の成長」を促し、子ども達相互の「ふれあい」を大切にした教育環境を調えることが何よりも大切と考えている。そして、幼児がいろいろな生活体験を積み重ねることができるよう指導と援助を行い、「明るく伸び伸びした幼児の育成」を目指すことが教育目標である。幼稚園集団生活の中で、幼児期の「躰」を充分に行い、情緒の安定を図り、そして将来の社会の担い手となるよう、自主性と協調性をもった豊かな「個性の創造」を育むことに努力研鑽に努めている。「幼児の心身の成長発達を助長し明るく伸び伸びとした集団生活を行う」「幼児期の幅広い諸経験を通して自主性を培い、そして体得して表現し、さらに集中してやり遂げる」という幼児教育を目指している。

2011年度・平成23年度は、それぞれの学年において次ページ以下の教育目標（学年単位）を設定し、保育に努めた。また、その期ごと（1～3学期終了時）に学年の単位で評価会議、その内容を教員全員で反省会議を実施し、次学期向けの課題を学年を越えて確認した。

年長学年・5歳児

[学年の目標]

自分で考えたり、友だちと協力しながら、見通しをもって生活や活動を展開し意欲的に園生活を送る。

[健康・生活習慣]

- 1期（4・5月）◎新しい環境に慣れ安定して過ごす。
◎生活習慣を見直すとともに、新しい生活の場所を知り、仕方を身につける。
- 2期（6～8月）◎人の話を聞く大切さを感じ、注意して聞く。
◎身体を動かす楽しさを感じ、進んで運動しようとする。
- 3期（9～12月）◎生活や活動の約束事を意識し、はじめをもって行動する。
◎生活習慣を身につけ、自分で意識を高くもって意欲域に取り組む。
- 4期（1～3月）◎身についたことを丁寧に言い、健康に気をつける。
◎生活習慣や活動への意識を高め、友だちと助け合いながら自主的に取り組む。

- ・一日の生活の流れや行事の内容、流れ等について予め伝え、見通しを持って行動できるようにする。
- ・友だち同士で見合いをしたり、教え合うことで意識を高め習慣付くようにする。
- ・生活習慣について細かなことも一つずつ確認することで見直すとともに意識を高め進んで行えるようにする。
必要に応じ繰り返し保育者が言葉がけたり必ず確認するようにし、習慣づけていく。
- ・最年長児であることに自覚が持てるよう話をし生活態度や活動に取り組む姿勢で手本となる気持ちが持てるようにする。
- ・製作時は、机の上を整理しながら活動する等、常に整理整頓を意識できるよう言葉がける。
- ・話の内容の大切さに気付けるよう繰り返し言葉がけ、人の話を注意して聞こうとする意識を高める。
- ・子どもたちが、話に興味や関心を持って聞けるよう保育者は、抑揚をつけたり話す内容に応じて簡単に話すなど伝え方を工夫する。
- ・さまざまな運動用具を準備し、保育者が仕方やコツを伝えながら意欲的に取り組める環境を整える。
- ・衣服調節や水分補給、手洗い、うがい、消毒を進んで行えるよう指導するとともに、伝染病やその他の病気について知り、健康への意識を高められるよう話をしていく。

[人間関係]

- 1期（4・5月）◎友だちや保育者に親しみをもち、進んで関わろうとする。
◎年長児としての自覚を持ち、小さな友だちの世話を意欲的に行う。
- 2期（6～8月）◎友だちと遊ぶ中で、色々な考えや思いがあることに気づき、受け止めようとする
◎気の合う友だちと一緒に遊び、つながりを深める。
- 3期（9～12月）◎ひとつの目標に向かって友だちと協力しながら、達成する喜びや楽しさを味わう
◎生活や活動の中で、一緒に活動する楽しさを味わう。
- 4期（1～3月）◎友だちの良いところを認め合い、一緒に活動する楽しさを味わう。
◎生活の様々な場面で、自分で考え自分で行動する。

- ・個々の内面を理解し、一人ひとりに寄り添った関わりをすることを心がけ、保育者との信頼関係を築けるようにする。
- ・遊びの時間を十分に確保していくことで友だちと関わる時間を多く持てるようにする。
- ・日頃から年下の友だちのことを意識し、関わりが持てるよう言葉がけ機会をつくっていく。関わり方については自分たちで気づいたり考えながら関われるよう話をしていく。
- ・トラブルが起こった時には、子ども同士で解決していけるよう見守ったり、必要な言葉を具体的に知らせ援助していく。必要であればクラスや学年全体で考えられるよう機会を設ける。
- ・友だちの表情に気付いたり気持ちを考えられるよう話をし、色々な角度から友だちを見ようとする気持ちを持てるようにしていく。
- ・様々な活動を通し、友だちと力を合わせることの大切さを保育者も共感し、意欲につなげ達成感を味わえるようにする。一人ひとりの頑張りを認め自信につなげながら取り組んでいく。
- ・友だちの良いところを発表する機会を設け、互いを認め合えるようにする。
- ・色々な人が支え合って生きていることを具体的な場面をあげながら話し、色々な人に思いやりや感謝の気持ちが持てるようにする。
- ・個々の考えや思いを認め、保育者も一緒にじっくり考える時間を持つことで、自分で考え「やってみよう」という気持ちにつなげる。

[環境・遊び・自然・数量]

- 1期（4・5月）◎身近な植物に親しみをもち大切に育てる。
◎物の活用の仕方やその物の必要性を知り、大切にする。
 - 2期（6～8月）◎栽培物の世話を通し、植物の生長に関心を持ったり、収穫の喜びを味わう。
◎砂やどろんこ、水遊びなどの活動の中でそのものの性質に気づき工夫して遊ぶ。
 - 3期（9～12月）◎身近な遊具や用具に興味を持って関わり、考えたり試したりしながら工夫して遊ぶ。
◎動植物との関わりを通して、生命の尊さに気づき、いたわったり大切にすること。
◎季節の変化に気づき、自然物に興味を持つ。
 - 4期（1～3月）◎冬の事象に関心を持ち、それを取り入れて遊ぶ。
◎日常生活の中で、数量や図形に関心を持つ。
- ・栽培物の生長に興味を持てるよう、保育者自身が小さな変化にも気づき話をしていく。
 - ・栽培物の世話を毎日することの大切さを知らせ、進んで行えるようにする。
 - ・保育者自身、物を大切に扱い見本となる。
 - ・教材（折り紙、画用紙等）や玩具など、工夫の仕方で様々な活用法があることを知らせ、物への関わりを自分たちで発展させて物を大切にすることにつなげていく。
 - ・物の使い方の工夫やその物の必要性について、必要に応じ自分で考えたり試して気が付けるよう見守る。
 - ・遊具や用具に十分関われるよう、環境を整える。時には、友だちが工夫して遊んでいることに気づけるよう言葉がけたり、保育者自らが工夫の仕方を示し、色々な物に興味を持って関わる機会をつくる。
 - ・自然物を製作に取り入れたたり、畑や裏山などを見に行く機会を設け、季節を感じられるようにする。
 - ・保育者自身も季節の事象に関心を持ち、季節の移り変わりに子どもたちが気が付けるよう言葉がけていく。
 - ・ワークブックのページや内容を一緒に読んだり、生活の中で時計を活用するなどし、文字や数字に関心を持てるようにする。

[言葉]

- 1期（4・5月）◎自分の気持ちを相手に言葉で伝えようとする。
◎親しみをもち日常の挨拶をする。
 - 2期（6～8月）◎自分の言いたいことを分かるように話す。
 - 3期（9～12月）◎絵本や紙芝居に親しみ、興味を持って聞いたり読んだりし、想像する楽しさを味わう。
◎人の話に関心を持ち、注意して聞こうとする。
 - 4期（1～3月）◎人の言葉をよく聞き、自分の考えや経験したこと話し、伝え合う喜びを味わう
◎絵本や物語などに親しみ、友だちや保育者と心を通わせる。
- ・挨拶は保育者が率先して行う。挨拶の大切さや気持ちよさに気が付けるよう話をする。
 - ・友だちとの関わりの中で、嫌なことや困ったことがある時に、自分の気持ちを言葉で伝えられるよう、その都度繰り返し話をするとともに必要な言葉を具体的に知らせていく。
 - ・聞く方も最後まで相手の話を聞く気持ちが持てるよう指導していく。
 - ・自分の思いを伝え合えるようになってから、自分たちで解決できるよう見守る。
 - ・絵本や紙芝居の読み聞かせの時間や自由に選んで本を読む時間を確保し、色々な物語に触れられるようにする。
 - ・物語を通し、感じたことや想像したことを伝え合う機会を設ける。
 - ・自分の感じたことや経験したことなどを発表する場を多く設ける。

【表現】

- 1期（4・5月）◎感じたことを自由に描いたり、作ることで表現する楽しさを味わう。
◎色々な楽器に興味を持ち、簡単な合奏を楽しむ。
- 2期（6～8月）◎色々な歌に親しみ、歌詞やその世界を思い浮かべながら歌うことを楽しむ。
- 3期（9～12月）◎曲やリズムに合わせ、全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わう。
◎色々な素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
◎音楽に親しみ、友だちと歌を歌ったり音色を奏でる心地良さを味わう。
- 4期（1～3月）◎劇遊びを通して、自分のイメージを豊かにし、動きや言葉で表現したり演じて遊ぶ楽しさを味わう。
- ・年間を通して鉄琴、木琴、鍵盤ハーモニカ、打楽器に触れる機会を設け演奏する楽しさを味わうようにする。
 - ・歌は、歌詞の意味を伝え、気持ちを込めて歌うように指導する。
 - ・歌や楽器の取り組みでは、個々の様子を把握し、個々に合わせた指導を行い自信につなげていく。
 - ・自由に絵を描いたり、ある形から連想して絵を描く等の機会を持ち、イメージを豊かにし、伸び伸びと表現できるようにしていく。
 - ・リズム表現では、子ども達が興味を持ち伸び伸びと楽しめるよう題材（曲、踊り）遊びを工夫する
 - ・製作では、色々な素材や技法を取り入れていく。
 - ・劇遊びは、子ども達の意見を大切にし取り入れていくことで、より意欲を高め楽しさを感じられるようにする

年中学年・4歳児**【学年の目標】**

活動や遊びの中で友だちと意見を伝え合い、受け入れながら自分の力を発揮し、意欲的に取り組む。

【健康・生活習慣】

- 1期（4・5月）◎園生活の仕方がわかり見通しをもって自分の出来ることを進んでしようとする。
◎手洗い・うがい・消毒を進んで行い、健康への意識を高める。
- 2期（6～8月）◎夏の生活の仕方を知り自ら進んで行ない、身につける。
◎危険な遊び方や災害時の約束事を守ろうとする。
- 3期（9～12月）◎戸外で身体を動かす心地良さを感じ自ら身体を動かそうとする。
◎生活習慣を見直し、身についたことを継続して行う大切さに気付き、丁寧に取り組む。
- 4期（1～3月）◎身についたことを意欲的に行い、自信をもって取り組む中で、進級に期待を持つ。
◎手洗い、うがいを進んで行ない病気の予防について関心を持ち進んで行う。

- ・園生活で習慣づいていることを子どもたちと確認しながら、自ら行えるように気づかせていく。様子を見ながら全体への言葉掛けを減らし、自主性を育む。
- ・出来たことを認め、自信を持てるようにする。
- ・手洗いやうがい、消毒、衣服調節、水分補給など進んで行えるように言葉がけ気付かせていく。また、出来ているか保育者も十分に把握し、指導していく。
- ・けじめをもって話が聞けるよう、姿勢を正してから話し始めるとともに返事の大切さも伝え、話し方や導入も工夫する。
- ・日頃から正しい遊具の使い方や遊び方を伝えとともに、みんなで活動する中で身体を思いっきり動かして遊ぶ楽しさを感じられるよう保育者も心地良さを共有していく。
- ・交通安全指導や避難訓練を通して、安全な行動を身につけ、機敏に行動できるよう日頃から話を聞いてすぐ行動に移せるよう指導していく。
- ・サーキットや体育指導で取り組んだ内容を日頃から取り組めるように挑戦する気持ちを育む。

【人間関係】

- 1期（4・5月）◎新しい友だちや保育者に親しみ、一緒に過ごすことの喜びを味わう。
◎友だちの思いや表情や言葉から汲み取り行動しようとする。
- 2期（6～8月）◎好きな遊びを通して、友だちとのやりとりを楽しみながら遊びこむ。
◎異年齢の友だちに親しみを持ち、触れ合いながら遊ぶことを楽しむ。
- 3期（9～12月）◎友だちの思いを受け止めながら自分の思いも相手にわかるように伝えようとする。
◎クラスの友だちと一つのことに取り組む楽しさを味わう中で友だちの良さに気付いていく。
- 4期（1～3月）◎活動や遊びの中で友だちと一緒に物事をすすめたり、解決しようとする。
◎年下の友だちに思いやりの気持ちを持って関わろうとする。

- ・トラブルでの仲立ちとなる際は、言葉で思いを伝え合えるように言葉掛けていく。様子を見ながら必要な言葉を知らせたて見守り、自分たちで解決する力を育む。
- ・好きな遊びを見つけ、じっくり取り組める場所や時間を確保する。個々での遊びに取り組める時間を設けることで、友だちとの関わりを深められるようにする。遊びが広がるように保育者が仲立ちとなったり、リーダー的存在の子どもを遊びの中心におくなどする。
- ・異年齢児と関わる時間を設け、具体的な関わり方や言葉掛けの仕方を知らせ、思いやりを持って聞かれるようにする。〔年少児に着替えを教えたり、園での約束事を知らせるようにすることで自らの意識向上にもつなげる〕〔年長児と関わる中で教えてもらう経験から憧れの気持ちを持ち、やってみようとする思いにつなげる〕
- ・当番活動だけでなく、リーダー活動を取り入れ、相手に伝わる伝え方に気付けるようにし、自らも話を聞く大切さに気付けるようにする。
- ・学年での活動や横割り活動も取り入れ、色々な友だちとの関わりを深められるようにする。また、保育者も全体の様子を把握できるようにし共通理解を図る。
- ・友だちに興味を持てるように、友だちの頑張りや良いところに気付き、認め合えるよう保育者も率先して言葉掛ける。

[環境・遊び]

- 1期（4・5月）◎季節の植物や生き物に気付き、興味や関心を持つ。
◎保育室の整理整頓、おもちゃの片付けなど進んで行ない気持ちよく過ごせる環境を整えようとする。
 - 2期（6～8月）◎水や泥、砂に触れて夏ならではの遊びを十分に楽しむ。
◎野菜の栽培を通し、世話をすることで生長する様子に感動や期待を持つ。
 - 3期（9～12月）◎季節の変化に気付き、植物や果物の名前や特徴を知り興味を持つ。
◎色々な活動（廃材遊び、楽器遊び等）を通して、物の性質や特徴を知り、興味や関心を持って取り入れて遊ぼうとする。
 - 4期（1～3月）◎自分なりの遊びのイメージや目標を持ち、友だちと共有しながら継続して取り組む。
◎友だちと意見を出しあい、工夫しながら遊びを發展させ、役割分担をしながら遊びを進めようとする。
- ・裏山（自然観察園）散策や市民の森公園散策を通して、自然物や季節の移り変わりに気付き、親しめるようにする。
 - ・自然物等を使って遊ぶ時間を十分に確保し、その中で工夫したり物を大切に作る気持ちを育てる。
 - ・園庭に咲いている植物や虫に興味・関心を持てるよう図鑑や絵本をみれるよう環境を整える。また、今まで世話してきたチューリップが咲いたことに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・屋上や戸外で食事をする機会を設け、戸外で過ごす心地良さを味わえるようにする。
 - ・水や泥の感触を味わえるようにするとともに取り入れながら全身をつかう遊びを伝える。
 - ・水に慣れるよう年少時から取り組んだフープ作りや列車ごっこ遊び、自然に水と親しめるような遊びに取り組んでいく。
 - ・当番活動の中で整理整頓を呼びかけるとともに進んで行えるよう指導していく。
 - ・日付を毎日伝えていくことで正しい数字の読み方を覚え、日々の変化に興味を、持てるように指導していく。
 - ・野菜の生長を見たり、収穫し食することで食物への関心がもてるようにする。
 - ・伝承遊びや集団遊びを取り入れ、自分たちでルールを考えたり遊びをすすめていく力を育む。

[言葉]

- 1期（4・5月）◎経験し感じたことを自分なりの言葉で表現しようとする。
◎保育者や友だちに進んで挨拶や返事をする。
 - 2期（6～8月）◎人の話を興味を持って聞き、共感したことを言葉で伝え合う楽しさを味わう。
◎正しい言葉の使い方を身につけ優しく伝えようとする。
 - 3期（9～12月）◎友だちの頑張る姿や良いところに気付き、認め合い伝え合う喜びを味わう。
◎色々な曲を歌い、歌詞の意味を理解し感情を込めて歌う。
 - 4期（1～3月）◎絵本や物語などに親しみ、想像しながら聞く楽しさを味わう。
◎クラスや異年齢の友だちに思いやりを持って関わり、気づいた事や感じたことを伝え合う。
- ・クラス内で発表し合える機会を作り、友だちの話に興味を持つとともに感じたことや経験したことを自分の言葉でわかりやすく伝えられるように援助していく。
 - ・日々の活動で子どもたちが努力していることに保育者が気付き、言葉かけることで子ども達も認め合えるようにしていく。
 - ・率先して挨拶ができるよう指導し、返事をする事の大切さに気付けるよう話をしていく。
 - ・互いの気持ちを受け止められるように場面に応じた仲立ちをし、気持ちの表し方や伝え方に自ら気付けるようにしていく。
 - ・歌詞の意味を知らせ情景を思い浮かべながら、気持ちを込められるよう指導する。

【表現】

- 1期（4・5月）◎身体を動かして遊んだり、音や色等さまざまなことを感じながら遊ぶ。
◎イメージしたものや経験したことを思い浮かべながら表現しようとする。
- 2期（6～8月）◎楽器の音色、特徴や曲の強弱に気付きながら演奏する。
◎リズム遊びを通して、力の加減や身体の動かし方を身につけ、伸び伸びと表現する。
- 3期（9～12月）◎友だちとひとつのものをつくり上げるイメージを共通でもち楽しんで取り組む。
◎友だちと音やリズム、動きを揃えて表現する楽しさを味わう。
- 4期（1～3月）◎物語をイメージして役になりきり表現し友だちの良いところを取り入れたり工夫しながら取り組もうとする。
◎感じたことを様々な方法で表現する楽しさを味わう。
- ・さまざまな素材や表現に触れ、工夫しながら表現できるよう提供していく。また、色々な素材や用具を目的に合わせて選べるように指導していく。
 - ・話を聞いて自分なりにイメージして言葉や身体で表現する機会をつくる。また、保育者も子どもの言葉や表現を引き出せるように言葉掛けていく。
 - ・年少時に引き続き、リズム遊びを取り入れ、身体全体で表現したり、音楽リズムに合わせて表現する楽しさを味わえるようにする。また、少人数グループや全員で行える活動も取り入れ、友だちと揃えたり振り合えるようにする。その中で、力の加減や間隔の取り方、細かい身体の動かし方等も身につくようにする。
 - ・楽器に親しんで使い慣れるようにするとともに簡単なリズム打ちを楽しんで行えるよう指導する。リズムが揃ったり音が重なり合う美しさにも気付けるように言葉掛けていく。
 - ・作品を見合い、工夫した所や良いところを言いあう機会を設け、友だちの表現に興味を持つとともに自分の表現（作品）に自信を持てるようにする。
 - ・自由画帳を活用し、自由に絵を描く経験を積む。
 - ・用具を使いこなせるように、活動内容を工夫しながら指導していく。

【遊び・全身運動】 【造形・音楽リズム・自然】 chart略**年少学年・3歳児****【学年の目標】**

基本的な生活習慣を身につけ、安定して園生活を過ごすとともに自分の思いを様々な方法で表現し、友だちと関わる楽しさを味わう。

【人間関係】

- 1期（4・5月）◎園生活に慣れ、安定して過ごす。
◎保育者や友だちの存在に気付き興味を持つ。
- ・一人一人スキンシップを図り、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く。
 - ・それぞれが好きな遊びを始められるようにコーナーを作る等、安心して過ごせる環境を整える。
- 2期（6～8月）◎好きな遊びを見つけて友だちと一緒に遊ぼうとする。
◎保育者に親しみをもち、触れ合ったり一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・友だちの遊びに気付けるよう言葉掛ける。
 - ・まねっこ遊びや追いかっこ等、簡単な遊びを通して保育者の動きや言葉に関心が持てるようにする。
 - ・保育者の表情や言葉掛けに留意し、楽しい雰囲気作りをする。
- 3期（9～10月）◎気の合う友だちとの遊びの中で自分の思いを表現する様々な方法に気付く。
◎クラスの友だちと一緒に集団遊びを楽しむ。
- ・友だちの表情に気付けるような言葉掛けをする。
 - ・保育者が率先して遊びに誘いかけ、より多くの友だちと関わられるようにする。
- 4期（11～12月）◎気の合う友だちに自分の思いを伝える。
- ・トラブルが起こったときなどには、自分の思いを伝えるための具体的な言葉を知らせるようにする。
 - ・問題が起こったときには、クラスで話し合う機会をつくる。
- 5期（1～3月）◎色々な友だちに様々な方法で自分の思いを伝えようとする。
◎自分の思いが通らないこともあると気づき、友だちにも思いがあることを知る。
- ・自分で伝えることが出来たことをしっかり認め、自信につなげる。
 - ・自分にとって否定的な答えが返ってきたとき、いじわるされたと思ひ込むことが多いので、相手の気持ちを理解できるよう代弁していく。

[健康・生活習慣]

1期（4・5月）◎生活に必要な場所を知り、仕方や約束ごとを知る。

◎食物に関心を持ち、食べることを楽しむ

- ・一つひとつ丁寧に繰り返し伝えていくようにする。
- ・伝える内容や現状についての話し合いをし、保育者間で統一を図れるようにする。
- ・日頃より食育を通して食物に興味を持てるよう伝えていく。

2期（6～8月）◎自分の身の回りのことを進んで行おうとする。

◎危険な場所や遊び方、災害時等の行動の仕方を知り気をつけようとする。

◎和式トイレの仕方を知る。

- ・ロッカーの使い方等、視覚的に伝え子どもたちが進んで行える環境を整える。
- ・トイレは一人ひとり仕方を伝えむるようにし、必要に応じて足型を付けるなどし、分かりやすくする。
- ・生活習慣や約束事（交通ルールや災害時の行動）についての視覚的教材を活用し、理解につなげる。

3期（9～12月）◎清潔・風邪予防について興味・関心をもち進んで手洗い・うがい・消毒を行う。

◎衣服調節を進んで行う。

- ・絵本等を活用し、興味・関心を持てるようにする。
- ・手洗い、消毒はクラス全員で行い、丁寧にできるよう指導するとともに確認を行う。
- ・自分の身体作りについて関心を持てるよう話をする。

4期（1～3月）◎今まで身についたことを自ら継続して行う。

- ・一人ひとりの成長を認めるとともに身の回りのことが自分でできるようになった喜びを実感できるよう言葉掛ける。

[環境・遊び]

1期（4・5月）◎自分の好きな遊びや場所を見つけて遊ぶ。

◎戸外の自然に触れ、感じたり発見して楽しむ。

- ・固定遊具の使い方や約束事を知らせ、楽しさに気付けるようにする。
- ・園内を巡ったり、遊んだりして色々な場所や自然に興味をもてるようにする。

2期（6～8月）◎水、砂、泥などの感触を楽しみ伸び伸びと遊ぶ。

◎植物の生長に興味を持ち、喜んで世話をする。

- ・保育者や友だちの遊んでいる様子を見せ、遊びに関心を持つよう誘いかける。
- ・植物の生長過程に気付けるよう話をし、収穫に期待が持てるようにする。

3期（9～12月）◎戸外で思いっきり身体を動かし、遊ぶことを楽しむ。

◎秋の自然に親しみ、自然物をつかった遊びを取り入れる。

- ・簡単なルールのある遊びや色々な用具をつかった遊びを取り入れる。
- ・自然観察園（裏山）を散策したり、自然物を遊びや活動に取り入れることで季節の移り変わりを感じられるようにする。
- ・日頃より、みたり触ったりすることで、色・形・大きさ等の発見を楽しめるように言葉掛ける。

4期（1～3月）◎冬の自然にの不思議さやおもしろさに気付く。

◎友だちと一緒に遊ぶ中で共感し合う喜びを味わう。

- ・冬の自然にふれて驚いたり、感動したりする気持ちを受け止めるとともに保育者自身が気付いたことや感動を伝える。
- ・子どもの興味のあることを把握し、色々な遊びを行える環境を整える。
- ・異年齢児が行っている遊びに興味を持てるよう話をしたり誘いかける。掛ける。

[言葉]

1期（4・5月）◎挨拶、返事を進んで行う。

◎保育者や友だちの名前を知り、呼んだり呼んでもらう嬉しさを味わう。

- ・保育者が見本となるよう率先して挨拶を行う。
- ・返事をする習慣が身に付くよう、繰り返し言葉掛けていく。

2期（6～8月）◎遊びや生活の中で必要な言葉を知りつかう。

- ・状況に合わせて具体的な言葉をその都度知らせる。

3期（9～12月）◎自分の思いを言葉で伝える楽しさを味わう。

- ・異年齢児との関わりを通し、聞いてもらったり、受け止めてもらえることへの安心感や嬉しさに気付けるよう言葉掛ける。
- ・トラブルが起こった場合は、自分の思いを伝えるための具体的な言葉を知らせるようにする。

4期（1～3月）◎自経験したことや想像したことを自分なりの言葉で話そうとする。

- ・絵本の素話を聞かせ、人の話に耳を傾けたり興味を持てるようにする。
- ・感じたことや考えたことなど保育者が問いかけ、自分なりに表現する機会を設ける。

【表現】

1期（4・5月）◎手遊びや歌に親しみ、興味を持つ。

◎保育者や友だちと一緒にリズムに合わせて身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

- ・子どもの歌いやすい歌や興味をもっている歌、手遊びを取り入れる。
- ・リトミックを取り入れ音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わうようにする。

2期（6～8月）◎色々な材料や用具で描いたり作ったりすることを楽しむ。

◎色々な楽器に興味・関心を持ち、音をならすことを楽しむ。

- ・用具、楽器の使い方を知らせ、正しく扱えるようにする。
- ・子どもの興味や成長段階に合わせて、色々な経験ができるよう、活動を考慮する。
- ・子どもの表現したいことを認め、自信につなげ伸び伸びと表現できるようにする。

3期（9～12月）◎自然物や様々な素材をつかい作ることを楽しむ。

◎アイデアを出しあい、友だちと一緒にひとつの物を作る楽しさを味わう。

◎友だちと一緒に歌をうたったり、合奏する楽しさを味わう。

- ・素材の違いや組み合わせによつて、形など出来上がり方が違うことの面白さに気付けるよう話をする。
- ・友だちの意見に関心を持ち、取り入れられるよう言葉をひろったり、呼びかけをする。
- ・色々な楽器の音の違いに気付くよう言葉掛ける。
- ・保育者も歌をうたったりピアノ伴奏をし、楽しい雰囲気作りをする。

4期（1～3月）◎物語に親しみ、自分なりに伸び伸びと表現することを楽しむ。

◎用具の使い方を身につけ、イメージしたものを自分なりに表現しようとする。

- ・日頃より、絵本や素話を取り入れ、物語に親しみが持てるようにする。
- ・リトミックや様々な表現遊びの中で子どもの表現を認め、自信を持ち伸び伸びと表現できるようにする。
- ・「こんなふうに作りたい」というイメージを汲み取りながら手順や方法を一緒に考えたり、手掛かりになるよう援助する。

【表現（造形・音楽リズム）】 【遊び・全身運動】 chart略

幼稚園全体・全学年

【目 標】 異年齢による教育活動を通して以下の教育目標を設定。

1. 異年齢の友達に親しみを持ち関わりを深め、友だちとの生活の中で自分らしさを発揮する。
2. いろいろなクラス、学年の友達や保育者との関わりを楽しむ。
3. すすんで関わりをもち、思いやりの気持ちを育む。

【2011年度 異年齢児による教育活動の取り組み】

◎ 入園・進級当初 【4月・5月】

- | | | |
|------|--------------------------------|----------------|
| 保育目標 | ① 異年齢の存在を知らせ知り親しむ。 | ② まわりの人へ親しみをもつ |
| | ③ 自分の知っていること、できることを喜んで知らせようとする | |
| | ④ 自分たちができることを考え行おうとする | |
| 教育活動 | ① 園内めぐり→全学年 | ② 給食準備手伝い→全学年 |
| | ③ 食育指導→全学年・市民の森散策→年中・年長 | |

◎ 異年齢の友達に親しむ 【6月・7月・8月】

- | | |
|------|---|
| 保育目標 | ① 異年齢の友達に興味をもち一緒に遊ぼうとする |
| | ② 異年齢の友達に手伝ってもらいながら自分のことをしようとする |
| | ③ 異年齢の友達にどのように伝えるか考え、接する |
| | ④ 異年齢の友達と一緒に遊ぶことを楽しむ |
| 教育活動 | ① 歯磨き指導 ② ダンスを踊る ③ 笹飾り→全学年 ④ 異年齢チームでの活動→年中・年長 |
| | ⑤ 市民の森散策→年中・年長 ⑥ ディサービスセンター訪問→年長 |
| | ⑦ 夏期保育 ・夏期預かり保育 |

◎ 異年齢の友達との関わりが深まる [9月・10月・11月・12月]

- 教育保育目標 ① 異年齢の友達との関わり方を知る
 ② 自分の思いを友達に伝え友達の思いにも気づき受け入れたり応えたりする
 ③ 異年齢の関わりの中でリーダー的存在となり遊びをすすめる
- 教育活動 ① 運動会(異年齢リズム)→全学年
 ② 10月異年齢活動(市民の森散策、輪構成遊び)→全学年
 ③ いもほり(年中・年長) ④ 交通安全指導→全学年 ⑤ 七五三参拝
 ⑥ ディサービスセンター訪問→年長 ⑦ 11月異年齢活動
 ⑧ 市民の森散策→全学年 ⑨ 紙芝居読み聞かせ→全学年

◎ 異年齢の友達との活動に安心感をもつ [1月・2月・3月]

- 保育目標 ① 異年齢の友達に積極的に関わり、友達の思いに気づき行動する
 ② 今までの経験や関わりに自信をもち、色々な人と関わる力へとつなげる
- 教育活動 ① 朝の集いゲーム ② お正月遊び ③ 一日入園 ④ 昼食会
 ⑤ 誕生会司会進行・誕生会音楽隊の伝授 ⑥ お別れの集い→全学年
 ⑦ 異年齢保育→年長 ⑧ 年長児へのプレゼントづくり→年少・年中
 ⑨ 卒園製作→年長 ⑩ 歩こう会

年間を通し、「異年齢活動」がきっかけとなり、日常のあそびや登・降園での子ども達同士の関わり、預かり保育の活動時における子ども達同士の関わりが、さりげなく自然になるよう教育目標として設定した。異年齢児の交流は決して一方通行ではなく「やってあげるだけ」「やってもらうだけ」では成り立たず、「やってもらったことへの感謝の気持ち」「やってあげたことが、伝わった喜び」等、お互いが感じあうことが重要であると確信して重点目標とした。この取り組み、教育活動により本園の「建学の精神」がより太いものとなり、園児に意義ある教育活動並びに幼児の発達の援助が成されるものと認識している。

各学級 学級経営案

年度初に各担任教諭が設定した「学級経営案・骨格」を公開

年	す み れ	◎基本的な生活習慣を身につけ、自発的に行動できるようになる。 ◎話をしっかりと聞き、はじめをもって様々な活動に意欲的に取り組めるクラス。 ◎身体を使った様々な遊びを楽しみ友だちや保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ◎思ったことや感じたことを表現したり、言葉で伝え合うことで共感しあえるようになる。
	た ん ぽ	◎基本的な生活習慣を身につけ、自ら進んで取り組めるようになる。 ◎友だちと遊ぶ楽しさに気付き、集団での遊びに取り組む。 ◎自分の思いや感じたことを表現できるようになる。 ◎意欲的に活動に取り組む、はじめをもって行動できるようになる。
少	ば ら	◎基本的な生活習慣を身につけ、進んで行おうとする。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、思ったことや感じたことを伸び伸びと表現する。 ◎戸外で身体を思いっきり動かし、色々な遊びを楽しみながら表現できるようにする。 ◎遊びや様々な活動を通し、友だちと一緒に遊んだり取り組むことの楽しさや喜びを感じる。 ◎話をしっかりと聞き、様々なことに興味を持ち、意欲的に取り組もうとする。
	も も	◎話をしっかりと聞き、様々なことに興味を持ち、意欲的に取り組む。 ◎基本的な生活習慣を身につけ、挨拶や返事を進んで行う。 ◎友だちや保育者と一緒に遊び、みんなで過ごす楽しさや喜びを感じる。 ◎歌やリズムに親しみ、全身を使って伸び伸びと表現する楽しさを味わう。

各学級 学級経営案

年度初に各担任教諭が設定した「学級経営案・骨格」を公開

年	う	◎話をしっかり聞き、けじめの持てるクラス。 ◎戸外で伸び伸びと遊び、明るく笑顔のたえない優しいクラス。 ◎友だちの思いに気付き、思いやりや譲り合う心を育てる。 ◎様々な活動に興味を持ち、意欲的に取り組めるクラス。 ◎自分の考えや思いを相手に分かるように伝え、伝えあう喜びを感じる。 ◎友だちとの関わりを深め、感じたことイメージしたことを様々な方法で豊かに表現して遊ぶ事を楽しむ。
	き	◎友だちの思いを汲み取り、思いやりを持って関わることのできるクラス。 ◎身についたことを続けて丁寧に言い集中して話を聞き、けじめを持って自主的に活動に取り組むことのできるクラス ◎様々なことに興味をもって意欲的に取り組み難しいことにも挑戦しようとする気持ちの持てるクラス。 ◎自分の感じたことや思ったことを様々な方法で表現しようとし、友だちと共感しあう楽しさを味わうことのできるクラス。
	く	◎様々なことに興味を持って意欲的に取り組み、自己を発揮しながら最後までやり遂げることが出来るクラス。 ◎友だちの思いに気付き、思いやりを持って関わることのできるクラス。 ◎思ったことや感じたことを素直に表現し、伝え合ったり受け止めたり、共感し合えるクラス。 ◎進んで話を聞き、けじめを持って何事にも自発的に取り組めるクラス。 ◎リズム遊びや造形活動に親しみ、自分なりに工夫しながら伸び伸びと表現できるクラス。
中	さ	◎基本的な生活習慣を身につけるとともにけじめを持った態度で活動に取り組むクラス。 ◎友だちと心を通わせながら、一つの目標に向かって協力するクラス。 ◎季節の移り変わりや身近な植物の生長に関心を持ち、豊かな心を持ったクラス。 ◎自分の思いや考えを相手の分かりやすい言葉で伝えようとするクラス。 ◎イメージしたことや感じたことを様々な方法で伸び伸びと表現することが出来るクラス。
	く	◎何事にも意欲的に取り組み、最後までやり遂げる達成感を味わえるクラス。 ◎友だちに思いやりをもって関わることのできるクラス。 ◎自分で考え、自分の力で行動することの充実感を味わえるクラス。 ◎物を大切にする気持ちが持てるクラス。 ◎感じたこと、想像したことを言葉や身体、音楽、造形など様々な方法で伸び伸びと表現できるクラス。
長	た	◎基本的な生活習慣を身につけるとともにけじめを持った態度で活動に取り組むクラス。 ◎友だちと心を通わせながら、一つの目標に向かって協力するクラス。 ◎季節の移り変わりや身近な植物の生長に関心を持ち、豊かな心を持ったクラス。 ◎自分の思いや考えを相手の分かりやすい言葉で伝えようとするクラス。 ◎イメージしたことや感じたことを様々な方法で伸び伸びと表現することが出来るクラス。
	け	◎何事にも意欲的に取り組み、最後までやり遂げる達成感を味わえるクラス。 ◎友だちに思いやりをもって関わることのできるクラス。 ◎自分で考え、自分の力で行動することの充実感を味わえるクラス。 ◎物を大切にする気持ちが持てるクラス。 ◎感じたこと、想像したことを言葉や身体、音楽、造形など様々な方法で伸び伸びと表現できるクラス。

2. 平成23年度に重点的に取り組んだ教育内容

建学の精神に基づく「教育方針」さらに平成23年度教育目標（教育指針）のもと継続して「異年齢児による活動」の充実に努めた。（P11掲載）異年齢児同士で活動する教育日数を増加し、その内容を充実させた。また、学期毎に評価項目に沿って自己点検自己評価を行い、教師自らが指導や子どもとの関わり並びに子ども同士の関わりの援助について省みて本園教育内容の充実を目指した。

3. 自己評価項目の内容と達成及び取組の状況

本園では、平成15年度より教員全員の「自己評価」を実施している。継続して平成23年度においてもこれを実施した。以下にその「自己評価項目・評価の観点・評価の達成と取組状況」を公開する。

尚、「教員 自己評価・詳細」と「園長・主任 自己評価」及び「幼稚園運営の自己評価」「幼稚園管理に関する自己評価」に4分類してこれを公開する。

教員自己評価 詳細

	教員 自己評価項目				園長・主任 自己評価項目	
分類	A	教育方針・指導計画	G	研 修	K	教育内容
	B	健 康	H	家庭との連携	L	保護者支援
	C	学級経営	I	表 現	M	地域連携
	D	環 境	J	安全・衛生・危機管理	N	財務管理（決算予算）
	E	言 葉			O	安全管理
	F	人間関係			P	人事管理

A. 教育方針・指導計画

教育方針・指導計画	1	園の教育方針（教育目標・年度教育指針）を理解し、指導計画の「ねらい」や「内容」は幼稚園教育要領の精神を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっているか。【評価の観点】本園の教育方針教育目標を理解し、それぞれの領域における考え方が指導計画に反映されている【評価基準】A～B. 本園の教育方針・教育目標を理解し、その指導を行い、指導計画のねらいや内容が教育要領を踏まえ本園の教育方針に従ったものになっている。
	2	指導計画は、子どもの発達の姿に配慮したものとなっているか 【評価の観点】幼児期の特徴を理解し、子どもの興味・関心の赴くもの、また友達との関係について考慮している。また、担任教員だけでなくそれぞれの子どもを多面的にとらえる機会や話し合いの場を教員同士で設けている。 【評価基準】A～B. 子どもの発達の姿に配慮した指導計画のもと全教員で多面的に捉えている。
	3	指導計画は評価・反省に基づき見直しを行っているか。【評価の観点】作成した担任教師自らが評価・反省を定期的に行っている。指導案の反省記録は、何のために記載しているかを認識している。評価反省は教師と多面的に評価する機会を設けている。【評価基準】A～B. 定期的・ほぼ毎日、指導計画の評価を行い、見直しをしている。
	4	個々の子どもの発達の様子、生活の様子について指導要録以外にも記録があり、子どもの発達状況、生活状況について話し合う機会が定期的または必要に応じて設けられているか。 【評価基準】A. 個々の子どもの記録があり、それに基づいて話し合う機会を設けている。

B. 健 康

健康	1	子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか 【評価の観点】子どもが安定感を持って行動できるよう教員との信頼関係が築けるよう心がけている。また園内において子どもが自分なりの遊びを見つけて楽しめる配慮や工夫がされている。 【評価基準】A～B. 子どもがのびのびと活動し、充実感が味わえるように工夫している。
	2	子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか 【評価の観点】子どもの目が自然と戸外に向くように、室内から戸外への動線が連続するようにしている。 【評価基準】A. 広い園庭を十分に活用し、配慮や工夫をしている。
	3	子どもが運動的な活動に限らず、様々な遊びの中で十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている【評価の観点】子どもがどんな遊びに興味・関心を持ち活動意欲が高まっているかを理解し、日々の保育が特定の活動に偏る事の無いように計画している。 【評価基準】A. 十分体を動かす事ができるよう援助や働きかけを行っている。
	4	健康や安全な生活に対して必要な習慣や態度を身につけていけるよう工夫しているか 【評価の観点】遊びや食事の時間、生活のリズムを安定させ身につけていける指導を行っている。また、危険な場所や遊びに対して配慮や指導を行っている。【評価基準】A. 工夫している。
	5	幼児の病気疾病、学校伝染病などその主な疾病について十分に認識と知識をもっているか。また研修や知識体得の努力はしているか 【評価基準】A. 十分に理解、認識している。

C. 環 境

環 境	1	身近な環境に親しみ様々な事象に興味や関心が持てるように工夫がされているか 【評価の観点】園内の自然環境を整備し、子どもが植物に接する機会をつくっている。季節感のある素材を保育に活用したり、季節にあわせた室内環境を工夫している。子どもが光や風を感じられる工夫やそれらを保育に取り入れられている。【評価基準】A. 工夫している
	2	幼稚園全体の環境構成に十分配慮しているか 【評価の観点】自分の保育室のみならずトイレ、遊戯室など全体の環境構成に留意している。園門付近や廊下など安全管理を含め子どもの生活の場として意識している。【評価基準】A. 十分工夫している
	3	子どもが自発的に活動したり遊べる環境が整備されているか 【評価の観点】子どもの発達段階に即した玩具や遊具、教具を用意している。子どもが素材や用具などを自由に自分で選んで遊べるように工夫している。子どもがじっくり遊べる時間を確保している。【評価基準】A～B. よく整備している。
	4	子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか 【評価の観点】子どもの遊びや活動の広がりや臨機応変に対処するよう心がけ、その日の子どもの活動の様子を振り返りながら、翌日の環境を整えている。【評価基準】A. 十分に配慮や工夫がされている。

D. 言 葉

言 葉	1	子どもが自分の気持ちを自分なりに表現したとき、それを受け止めているか 【評価の観点】子どもの問いかけや話かけを後回しにせず、その場で対応している。またスキンシップなどを通して心情を読み取っている。【評価基準】A～B. 十分に受け止めている。
	2	子ども達自身が友だち同士で話し合えるように工夫されているか 【評価の観点】グループ活動や当番活動など子どもたちが自主的に進めていけるような機会を設けている。戸外遊びや自由遊びなどの時間を設けている。子どもたちで解決できそうな場合は、教員が答えを出してしまわないよう見守る姿勢を心がけている。【評価基準】A. 工夫している
	3	子ども自身が挨拶の意味を知り、進んで行っているか 【評価の観点】教員が率先して挨拶をし親しい雰囲気をつくり、挨拶の大切さや意味を子どもたちに伝えている。【評価基準】A. 進んで行っている。
	4	絵本や紙芝居、素話などを時間や内容を考慮し、工夫して積極的に取り入れているか 【評価の観点】子どもたちの興味のあるものに関連性がある絵本や紙芝居を用意している。行事や季節、また学年に応じたものを選んでいく。落ちついた、ゆったりした時間の中で、絵本や紙芝居、素話をする機会を設けている。【評価基準】A. 積極的に取り入れている
	5	毎日または定期的に教師と子ども達との会話の時間を設けているか 【評価の観点】グループ活動や当番活動など子ども達が自主的に進めていけるような機会を設けている。戸外遊びや自由遊び等の時間を十分に設けている。【評価基準】A. 毎日または定期的に時間を設けている。
	6	生活や遊びの中から出てきた言葉やアイデアが保育に活かされているか 【評価の観点】子ども達の話の中からでてきた疑問や発見を受け止めクラスで話し合ったり、実際に確かめたりしている。子ども達の発想や思いを基にしていく(例/描画・お話作り・劇遊び・リズム表現)等の活動につなげている。【評価基準】A. 十分に保育に活かされている。

E. 人間関係

人 間 関 係	1	子どもが自分で行動・活動することの充実感を味わえるような援助を行っているか 【評価の観点】子どもが不安になった時に、いつでも応じられるように教員が身近にいる。集団の中でも個々の子どもの気持ちや意図を汲み取る配慮をしている。子どもたちが自分で考え、自分で行動する機会を積極的に設けたり、それに対する援助を行っている。【評価基準】A～B. 援助を行っている。
	2	保育の上で相手の思いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか 【評価の観点】トラブルの場面では、危険のないよう配慮しながら子どもたち同士で解決できるように援助し、友だちに自分の思いを伝えようとしている子どもに対して、見守ったり必要な援助をしている。教員や友だち以外の色々な人を通して様々な事を知ったり考えたりする機会を設けている。異年齢児との交流の機会をしっかりと設けている。【評価基準】A. 援助や機会を設けている。
	3	園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか 【評価の観点】子どもたちが社会的ルールを身につけていくよう配慮している。当番活動を日常生活の中で行い、異年齢児との交流を行っている。友だちと協力したり、一緒に行う活動の機会を設けている。子どもが他者の気持ちに気づき、時には自分の要求を抑えるような援助や指導を行なっている。【評価基準】A. 指導を行い、機会を設けている。
	4	2011年度教育指針「異年齢保育」について園児と十分にかかわり、ねらいの達成に努めたか 【評価の観点】本園教育課程を理解し学級の園児以外にも多く関わった。異年齢児の存在を認識することから、段階的に園児に助言、指導したか【評価基準】A. 十分に助言、指導した。

F. 研 修

A / 園内研修 B / 園外研修

研 修	1	園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか【評価の観点】園長・主任をはじめとし、教員同士コミュニケーションをよくとり、他の教員の助言や保育技術を参考にしている。【評価基準】A. 自己の課題や園全体の課題について見直しや評価を行い、保育の質の向上に努めている。園内で「研究保育」を実施した。また、外部の研修会に積極的に参加した。
	2	教材の研究、題材の研究をその活動ごとにまたは、定期的に行ったか。【評価の観点】定期的に「教材」または「活動のための題材や素材など」についてその活用内容について研究したか。【評価基準】A～B. 「教材研究」を日頃より留意し保育に生かしている

	研修日時	研修内容	研修主宰者・参加者
1	2011年 5月 7日	製作活動	年少学年／内藤教諭 全教員 A
1	2011年 5月 1日	医療と教育では「発達障がい」をどのように捉えるのか	大阪医科大学LDセンター／主任参加 B
2	2011年 5月22日	発達障がいをうたがう子どもへの対応	大阪医科大学LDセンター／園長参加 B
3	2011年12月17日	発達に課題のある子どもへの遊びを通した支援	大阪医科大学LDセンター／主任参加 B

G. 家庭との連携

家 庭 と の 連 携	1	子どもの様子や育ち・保育内容等を保護者にわかりやすく伝えるよう工夫しているか【評価の観点】日常の様子などは電話などを活用している。けがや事故が起きた時は状況や原因などを細かく説明している。クラスや子どもの様子・成長などを「クラスだより」その他の文書で伝えている。保育参観等においても、保育内容をより理解してもらえるようにしている。【評価基準】A～B. 十分工夫しているが、不十分な面もあったことを省みている。
	2	保護者の質問や意見を聞くなど情報交換をすることによって、幼稚園と家庭が子どもの望ましい発達を促すための生活について考えていけるような連携がとれているか。【評価の観点】保護者の相談や質問には丁寧に対応し、個人面談で家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えるなど情報交換をしている。また、行事（運動会等）の感想・意見を聴いたりしている。【評価基準】A～B. 情報交換が行われ、望ましい子どもの発達のために家庭との連携をとっているが、より連携をめざすべきであると省みた。

H. 表 現

表 現	1	子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもが様々な表現を楽しむ事ができるように配慮しているか【評価の観点】子どもが生活の中で感じた美しいものや心を動かす出来事を教員が受け止め共感している。子どもたちの様々なイメージの表現に必要な素材や用具を工夫し、準備している。【評価基準】A～B. 意欲を受け止め、また配慮している
	2	子どもが日常的に歌をうたう機会が設けられているか【評価基準】A. 日常的に機会を設けている。
	3	身体を使った様々な表現あそびが取り入れられているか【評価基準】A. 十分取り入れている。
	4	子どもが幼稚園生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き等に気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか【評価の観点】子どもの興味関心を引き出すような音楽や楽器を保育に取り入れている。子どもに刺激となるさまざまな素材や保育教材が準備されている。【評価基準】A～B. 工夫また配慮している

I. 安全・衛生・危機管理

安 全 ・ 衛 生 ・ 危 機 管 理	1	室内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか。【評価の観点】遊具・設備備品・保育室内・園庭等户外・建物共有空間などに関する安全点検チェックリストや対応マニュアルを作成し運用している。事故や怪我の報告書などがあり、それをもとに再発防止に努めている。【評価基準】A. 日々の点検や定期的に点検改善を行っている。
	2	緊急事態に対して迅速に対応できるようにしているか【評価の観点】緊急時行動に関するマニュアルを作成し、職員に周知徹底、理解把握している。通報先（警察等外部）にすぐに連絡ができるようにしている。職員への連絡連携が取れる体制になっている。非常ブザーや防御スプレーなどがあり、すぐに使えるようにしている。消火器の位置を把握し、使い方を理解している。【評価基準】A. 迅速に対応できるように体制を執っている。
	3	薬品の取り扱いに十分配慮しているか【評価の観点】薬を飲ませる場合は保護者の依頼を受けている（与薬届）救急箱の置き場所・配置に配慮している。子どものアレルギー疾患などを把握していて、他の教員にも周知されている【評価基準】A. 十分配慮している。

I. 安全・衛生・危機管理

安全・衛生・危機管理	4	飲食物の保管は低温・低湿度の場所で行っているか、また保管場所に外部の侵入者が入れないようにするなど の配慮をしているか【評価基準】A. 配慮している。
	5	園庭は常に整備されていて、室内は清潔で整理整頓が行き届いているか 【評価の観点】園庭、遊具や玩具が使いやすいように工夫されている。【評価基準】A. 常に清潔・安全に 注意し整理整頓している。
	6	常に園児の安全に気を配っていたか。通園バスの進入の際や遊具の活用の際。その他の活動全般【評価の観 点】園児の日常的な中でも特に「活動直前」等は配慮している。【評価基準】A. 常に十分配慮している。

園長・主任 自己評価

(一部の項目は重複する場合があるが自己評価者が園長・主任となる)

J-1. 教育内容〔教育課程・研修〕

教育内容 (教育課程・研修)	1	各学年の指導計画が、園児の実体に即したものになっているか把握し、定期的に話し合い、園長・主任が指 導助言できる体制がある。 ＜評価基準＞A. その教務体制があり実践している。
	2	個々の子どもの状況について話し合う会議等が定期的かつ必要に応じて開ける体制がある＜評価基準＞A. 定期的に行う会議を含め、必要に応じて開ける体制があり、園長・主任が教員からの意見を定期的に聞き、 保育内容や運営の改善に生かしている。
	3	園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等、機会あるごとに教職員に周知するための取り組みを 行っている。＜評価基準＞A. 園の教育理念や教育方針が明文化され、教員会議等で話をしたり、文書にし て配付するなど、教職員に周知するための取り組みを行っている。
	4	教職員が自分の課題を把握しその課題を達成できるような指導体制をとっている＜評価基準＞A. 教員が自 分の課題を把握できるように自己評価や相互評価をできる機会を確保し、課題を達成できるよう、園長・主 任が指導（援助）できる体制をとっている。
	5	園内研修などを企画し、研修の内容を自園の教育理念に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている。 ＜評価基準＞A. 教員の意見を取り入れながら、園内研修・研究保育を企画し研修の内容を自園の教育理念 に沿った形で日々の保育に生かせるようにしている

J-2. 教育内容〔環境構成・行事等〕

教育内容 (環境構成・行事)	1	子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境が整備されている＜評価の観点＞○遊びや生活を通して人 間関係が育つよう配慮している。○子どもが友達と関わって活動を展開するのに必要な遊具や用具、素材が 用意されている。○身近な自然や社会と関われるような配慮がされている。○子どもが自発的に活動できる 環境が整備している。＜評価基準＞A. 子どもが様々な活動や体験をするのに適切な環境を整備している。
	2	個々の行事について、子どもの成長を第一に考えながら実践し、子どもの実態、ねらい等について教職員と 十分に話し合っている。 ＜評価基準＞A. 個々の行事についてねらい等について十分に話し合っている。
	3	保護者の意見も取り入れながら、行事の見直しを行っている＜評価基準＞A. 行事の後にアンケートを取る など保護者からの意見も取り入れ見直しを行っている。
	4	個々の行事についての意図や子どもの育ちを感じてもらふ観点を保護者に伝え、理解を得ている。＜評価基 準＞A. 観点を保護者に伝えるために文書や言葉で伝え、理解を得るようにしている。
	5	担任と協力し、園長・主任が担任とは違う立場で子どもと直接関わる機会を設けている。＜評価基準＞A. 保育の中身(流れ)をよく理解し担任と協力して、行事や日々の保育で子どもたちと十分に直接関わり、子ど もの育ち・実態を理解している。

K. 保護者支援

保護者支援	1	園と連携を図るため保護者会などの支援組織と連携を執っている（父母会）A.
	2	保護者に教育や子育てに関する情報を提供し、啓発に努めている ＜評価基準＞A. ホームページや文書により、情報提供し啓発に努めている。
	3	発達・育児について、保護者との共通理解を図るための機会を設けている。また子どもの様子や保護者から の依頼、対応など、教員で共通理解を図る体制がある ＜評価の観点＞日々の保育や懇談会等に知り得た子どもの様子や保護者からの依頼・意見に対し、対応する体 制を執っている。また教員間で共通理解を図り、教員会議などにおいて情報を共有し、対応策を考えている。 ＜評価基準＞A. 懇談会に加え、保育参観など保護者も一緒に参加できる行事を行ない、発達・育児について 共通理解を図る機会を設けている。保護者の依頼についても教員で共通理解を図っている。

K. 保護者支援

保護者支援	4	保護者からの意見や質問、相談は速やかに聞き、返答している ＜評価基準＞A. 教員が自分勝手な判断で返事せず、園長・主任に相談し把握した上で、返答している。
	5	保育中のけがや病気は、すみやかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上通院するなどの対処法がととのっている＜評価基準＞A. 適切に対応・対処している。マニュアルの有無にかかわらず、全教職員に周知徹底されている
	6	預かり保育や長期休暇中の保育を実施し、家庭や育児の補完をしている ＜評価基準＞A. 輪番で教師が担当し、子どもの心身の状態や、通常保育との関連、保育人数を配慮しながら、預かり保育や長期休暇中の保育を実施している。

L. 地域連携

地域連携	1	子育てや教育に関する理解や協力が得られるよう地域や学校と連携活動を行っている【評価の基準】園舎・園庭、空き教室等を開放し、地域や園に通う親子が交流し、子育てや教育に理解や協力が得られる活動を行っている。園での子育てや教育に関する情報提供をしている。A～B. 取り組んでいる
	2	地域・保護者の意見を聞き、保育ニーズを把握し事業に反映させている【評価の基準】会議やアンケート等により保育ニーズを把握する取り組みを行い事業に反映させている。A～B.

M. 財務管理 [決算・予算]

財務管理	1	予算作成について、基準があり、園の方針や特色を反映している。また決算内容について今後の改善点も含め十分に把握できている。【評価基準】A. 決算書について説明ができ、今後の改善点を明示できる。
	2	3～5年後の園の姿を想定できる中期的な財務計画を持っているか【評価の観点】○5年先までの予算を作成している。またそれに見合う経営方針・経営戦略を持っている。【評価基準】A. 中期的財務計画がある[平成20年度に5ヶ年計画策定]
	3	予算・実績を管理し、必要に応じて予算の改訂を実施している【評価の観点】予算実績を管理し進捗状況を説明できる。社会情勢や環境の変化に対応して人材や設備を投入できるよう予算改訂の位置づけがある。【評価基準】A. 出来ている
	4	決算書の公開は実施しているか【評価の基準】第三者も含め広く公開している。公開している計算書類→資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録 A.

N. 安全管理（教員自己評価と重複する項目あり）

安全管理（施設・衛生）	1	外部侵入者・来訪者等に対する安全対策が出来ているか＜評価の観点＞○出入口等でのチェック体制（監視カメラ等）が整えられている。○教員に電子笛を携帯させる等の対策を講じている。○緊急対応マニュアルがあり教職員に周知徹底している。＜評価基準＞A. 対策を十分に講じ、教職員にも危機意識を共有化している
	2	施設・設備に対する安全対策が出来ているか＜評価の観点＞○施設・設備が園児の活動・安全に配慮した配置になっている。○消防（定期点検・消防計画・避難訓練・防火管理者）に関する安全対策が出来ている。○施設・設備の安全点検管理票があり教職員に周知徹底し、定期的にチェック・補修等を行っている。＜評価基準＞A. 施設・設備の状況を把握し、適切な補修・改善等を実施している
	3	衛生に対する安全管理が出来ているか＜評価の観点＞○厨房の衛生管理に配慮し、給食日誌等を備え、給食については「検体」を執っている。○園庭・園舎（遊具・砂場・トイレ）のチェック体制が出来ている（記録・定期検査）園児の健康診断を実施している（台帳がある）○感染症等について教職員が共通の認識を持っている。○保護者に対して手紙を配付するなどして園児の衛生管理を啓発している ＜評価基準＞A. 衛生に対する管理体制が執り、教職員にも意識・徹底している
		園児に対する安全管理が出来ているか＜評価の観点＞○一年を通してケガや事故の起こりやすい時期・場所を教員が把握し、事故防止に努めている。○ケガをした場合のマニュアル（病院搬送・保護者への対応等）がある。○ケガや事故の報告書を作成し、再発防止に生かしている。○薬を飲ませる場合のマニュアル（与薬届）がある。○日本体育・学校健康センターに加入している＜評価基準＞A～B. 教職員全員が園児の安全確保に配慮し、事故防止に努めているが残念なことに若干名の園児が怪我を負うこととなった。

O. 人事管理

人事管理（その他）	1	教職員の健康管理を行い、積極的に保育に取り組める様になっている。 【評価の観点】○定期健康診断を実施している。○健康管理の指導をしている。【評価基準】A. 十分出来ている。
	2	定期的にかつ必要に応じて会議や研修会・ミーティング等を実施して、園長・主任と教職員とのコミュニケーションをとっているか。 【評価基準】A. 園の方針・教育界の動向等を伝えるための会議や研修会を実施し、また教職員の意見を聞くための個人面談・グループ面談等を行っている。
	3	教職員の資質を向上させるような取り組みをしている。 【評価の観点】○信頼される人として、良識やマナーについて確認する機会を実施している。○教員各々その経験や実力に応じた仕事ができるよう指導したり、環境を整えたりしている。【評価基準】A～B. ほぼ出来ているが十分でない点もある。

※ 前頁までの評価段階特記事項／A・B・C・Dの4段階「自己評価」

A	十分、達成されている	C	取りこんでいるが成果が十分でない
B	達成されている	D	取り組みが不十分である

幼稚園運営の自己評価

幼稚園教育の基本方針と組織

1-1	教育理念や基本方針が明文化され、周知されているか
内 容	教育理念・基本方針が明文化されている。 社会の要請や、園・子どもの実態に合うよう、検討を行っている。 教育理念・基本方針を保護者に理解してもらうために明文化し、配布している。 教職員に周知し共通理解してもらうため、年一度以上、会議・研修を行っている。 保護者に年一度以上、教育理念・基本方針についての説明がなされている。 幼稚園の教育理念・教育目標 保護者への説明プリント

1-2	教育課程・指導計画が作成されているか
内 容	教職員が教育課程・指導計画の大切さを理解している。 教育理念や基本方針にもとづいて、教育課程・指導計画が明文化されている。 保護者の求めに応じ、教育課程・指導計画が配布できるようにしている。 社会情勢や園・子どもの実態に合わせ見直し、反省と評価を行っている。 保護者に年一度以上、教育課程・指導計画についての説明がなされている。 教育課程 指導計画 教育週数の確認 幼稚園教育要領改訂

1-3	園長はリーダーとしての責任を果たしているか
内 容	園長は、園運営に関するビジョンの提示やさまざまな情報収集と提供を行っている。 園長は園運営の中心となり、教職員と協力して問題解決に努めている。 積極的に研修会に参加し、自己研鑽を図り、相談力・助言力・説明力・調整力・リーダーシップなどの向上に努めている。 折にふれ、園長の保育観や考え方を教職員や保護者に伝えている。 教職員と一緒に問題解決について、適切な判断が行われているか点検・評価を行っている。 園長のビジョンを明文化し伝える物

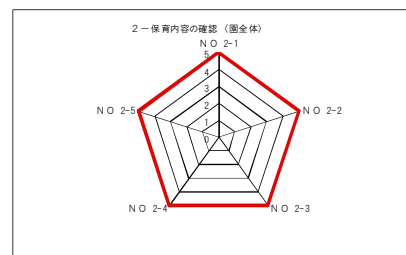
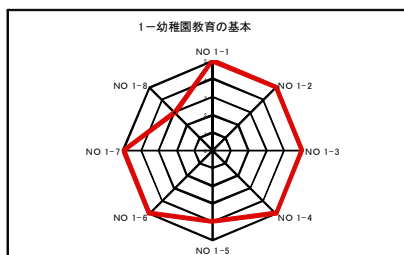
1-4	組織的な仕事が行なわれているか
内 容	各教職員の役割の分掌と責任が明文化されている。 教職員の相互理解と協力体制が整っている。 職務の実施内容・検討事項などが記録・整理され、活用できるようになっている。 日ごろから、円滑に組織的な仕事が行われるよう改善に努めている。 年齢・経験の隔たりなく話し合える機会を設定している。 教職員役割分掌表

1-5	地域交流と貢献を心がけているか
内 容	教職員は地域交流や貢献の大切さを理解している。 園の行事などに積極的に地域の人の参加を呼びかけている。 日常において地域の人との信頼関係を積み重ねている。 積極的に地域の文化・自然を活用して保育を実践している。

1-6 安全・衛生点検に心がけているか	
内 容	日ごろから安全・衛生意識の確認を行っている。
	定期的に、安全・衛生点検を実施している。
	点検マニュアルが準備されている。
	環境構成の際に、安全・衛生点検の視点を組み込んでいる。
	行政などからの情報を把握し、教職員で情報を共有し、安全・衛生点検に役立てている
	点検マニュアル

1-7 食育について、どのように取り組んでいるか	
内 容	園として食育に取り組んでいる。
	教職員間で食育について話し合い、共通理解を図っている。
	折にふれ、保護者に食育の方針について説明がなされている。
	家庭でも食の大切さについて理解してもらうように努めている。
	食育計画 栽培計画表など

1-8 環境問題への配慮がなされているか	
内 容	節水、節電に努めている。
	保育の中で環境教育を行っている。
	自然体験を通して、環境の大切さを知らせたり、深める活動を取り入れている。
	園での取り組みを保護者に知らせ、理解してもらっている。
	地域との連携を意識して行っている。



保育内容の確認〔幼稚園全体〕

2-1 幼稚園教育要領を踏まえて日々の保育を行っているか	
内 容	全教員が幼稚園教育要領を身近に備え、必要に応じ参照し、保育をしている。
	園の職員全員で、幼稚園教育要領について話し合うなど、理解を深めるように努めている。
	幼稚園教育要領を踏まえて教育課程、指導計画が編成されている。
	幼稚園教育要領をもととする幼稚園の保育内容について、折にふれ保護者に説明している。
	幼稚園教育要領のポイントが生かされているか確認している。

2-2 教職員間で子どもの共通理解・発達の確認がなされているか	
内 容	教職員間で子どもの様子や変化についての情報交換を行い、情報の共有を行っている。
	特に配慮が必要な子どもについては、個別の話し合いが行われている。
	教職員間で連携をし、その子の発達援助を全員で行っている。
	特に配慮が必要な子どもについては、家庭での状況を把握すると共に、家庭に園での様子などを伝えている。
	教育課程にもとづいて、子どもの発達の状況を把握している。
	子どもの育ちの記録

2-3 教職員間で諸会議が適切になされているか	
内 容	連絡会議や職員会議などが、定期的に行われている。
	直近の行事や予定など園の計画は、職員会議で周知徹底し、資料によって、わかるように整理している。
	会議簿・記録簿が記載されている。
	事前に議題を周知しておき、どの教職員からも提案、意見が積極的に出されている。
	子どもの発達に合わせた園環境の見直しについて、話し合われる場になっている。
	会議録

保育内容の確認〔幼稚園全体〕

2-4 記録の点検・確認がなされているか	
内 容	園日誌、保育日誌、行事の記録などの記入状況が点検されている。
	保育の記録や評価・反省は一定の様式・記入の仕方に従い、記載されている。
	記録は適切に保管・整理されている。
	保育の振り返りや、次回の計画の際に記録を活用している。
	映像、音声など多様な記録媒体を活用している。
	園日誌、保育日誌、行事の記録など

2-5 行事の配置は適正か	
内 容	年間行事計画を作成している。
	その年の子どもの実態に合わせ、行事を編成している。
	個々の行事について教職員と十分に話し合い、必要に応じ見直しを行っている。
	日本の文化や季節感のある行事を取り入れ、子どもに伝えている。
	保護者や地域の人たちとの関係作りに配慮している。
	年間行事計画

保育内容の確認〔教員〕

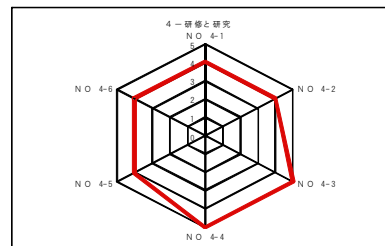
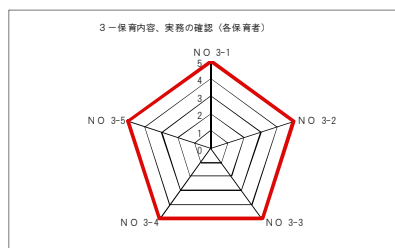
3-1 指導計画の立案・確認は行われているか	
内 容	指導計画、月案・週案などを確認し、具体的なねらいを設定した日案を立てている。
	活動内容は、発達の過程、子どもの興味・関心、生活の流れに応じているか確認している。
	計画は、ほかの教職員にも知らせて、相互確認をしている。
	計画は子どもの状況や天候などに配慮し、柔軟に実施されている。
	思い通りの活動と、クラスや全体での活動のバランスを考慮している。

3-2 子どもとの信頼関係の確保に努めているか	
内 容	クラスの子どもには、ひとりひとりに対して毎日言葉がけをしている。
	学年全体の子どもの名前を覚えている。
	スキンシップやあそびを通して、子どもとの関係を深めている。
	子どもへの言葉遣いや対応が適切であるか、教職員間で確認している。
	子どもの自主性を尊重し、好ましい人間関係を作っている。

3-3 日常保育のための環境構成を適切に行っているか	
内 容	前日までの子どもの様子に留意し、幼児の興味・関心やあそびの連続性に配慮した環境構成を行っている。
	週や一日を通し、バランスよく多様な活動ができるように、保育の構成を心がけている。
	子どもが自発的にかかわれる環境の構成に努めている。
	異年齢の子どもが自然に交流できるような環境の構成をしている。
	職員全体で連携し、環境の構成を行っている。

3-4 子どもの様子を評価・反省し保育に生かしているか	
内 容	その日の成長の様子や、変化が見られた子どもの様子を記録したり、同僚と話し合ったりしている。
	その日のねらいが達成できたか評価・反省している。
	反省を生かし、教材研究を行っている。
	翌日や週の保育活動や環境構成に生かしている。
	反省、評価の方法が、どのように保育に生かされたか、確認している。

3-5 日常の保育が適切に記録し活用されているか	
内 容	園日誌には、保育内容や出来事が記録されている。
	個人の記録は、決まった様式・観点で継続的に行っている。
	個人の記録は整理し、教職員間で活用されている。
	指導要録は進級、進学時に引き継ぎがなされている。
	個人の記録の取り扱い、および保管については十分に注意している。個人記録簿



研修と研究

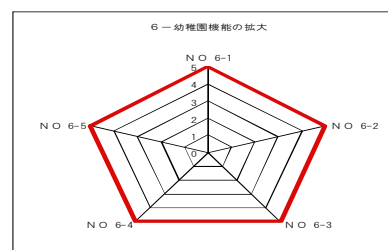
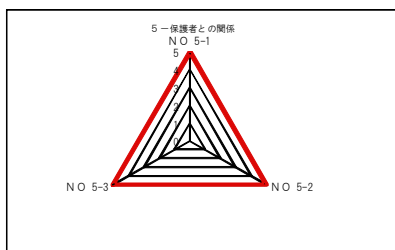
4-1 人材の計画的な確保、育成をしているか	
内 容	保育に必要な教職員数を計画的に確保している。
	園外の研修の参加を促進し、また園内の研修の実施に努めている。
	社会人としての良識とマナーを含めた研修を実施している。
	研修担当をしっかりと決め、責任をもって新人の育成にあたっている。
	非常勤職員にも、園の方針について研修を行っている。
4-2 園内研修が適切に行われているか	
内 容	定期的に園内研修が行われている。
	園内で課題や重点項目などを決め、継続的に研究を行っている。
	保育について教職員間で話し合ったり、指導や協力体制が確立されている。
	園内研修のカリキュラムが用意されている。
	外部より講師を招いて、第三者から学んでいる。2010年度は実施せず
4-3 園外研修が適切に行われているか	
内 容	園外研修に出やすい雰囲気を作り、積極的な参加を促している。
	参加者は、目的意識をもって事前の準備をし、参加するようにしている。
	研修で学んだことが教職員に報告され、保育に生かされている。
	年間を通して、計画的に園外研修を行っている。
	一年間を反省し、次年度の計画を立てている。
4-4 特別支援に対応しているか	
内 容	支援を必要とする子どもの受け入れの必要性を共通理解している。
	教職員は、日ごろから支援を必要とする子どもに関する一般的理解を深めるよう研修会に参加している。
	個々の子どもの理解が進むよう、保護者、教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図っている。
	医療機関や関係機関と連携をとり、必要な情報を全教職員が共有している。
	支援が必要な子どもに沿った環境整備がなされている。
4-5 いじめ・差別・性差別などの対応が適切に行われているか	
内 容	いじめ・差別・性差別などについて教職員の共通理解、情報交換を行っている。
	いじめ・差別・性差別などの課題について、保育の中での取り扱いに留意している。
	子どもや保護者にもわかりやすい説明を行っている。
	研修会に参加し、専門的な知識を得るように努力している。
	保育のなかでも、子どもたちにわかりやすく説明をして理解をしてもらっている。
4-6 幼小連携に努めているか	
内 容	幼小の連携の必要性を理解している。
	発達や学びの連続性を理解し、スムーズな接続に向けて教職員の研修を図っている。
	小学校との情報交換や連携に努めている。
	子どもたちに進学への期待や心構えなどを話す機会を設けている。
	保護者に対して、進学の心構えや、先輩の体験談などを伝える機会を設けている。

保護者との関係

5-1 子どもへの共通理解が行われているか	
内 容	保護者と個別面談や電話連絡などを通じて、定期的に子どもひとりひとりの共通理解に努めている。 園便りなどを利用し、園の様子や子どもの発達理解のための情報提供に努めている。 個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている。 子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを共有するよう努めている。 保護者が参加しやすい行事を設けている。

5-2 保護者理解と個別対応がなされているか	
内 容	保護者の家庭状況や変化を把握している。 特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応がなされている。 電話連絡などで、こまめな相互連絡を心がけている。 保護者が理解しやすい、日ごろからの関係・環境を作っている。 教職員同士での保護者理解のための情報交換・共有をしている。

5-3 苦情解決のための取り組みを行っているか	
内 容	苦情や質問の苦情解決のための仕組みを工夫している。 教職員が聞いた保護者の苦情や質問などは、主任や園長に伝えている。 主任や園長は必要により教職員に周知を図ったり、速やかな問題解決に努めている。 苦情の内容と、その解決方法はすべての保護者に情報として提供されている。 苦情については、職員が保育を改善するための前向きな意見としてとらえている。



幼稚園機能の拡大

6-1 地域の子育て支援に対応しているか	
内 容	幼児期の地域の教育センターとしての役割や、子育て支援の意義を理解し実施している。 子育て支援について、教職員の協力体制や情報交換を心がけている。 子育て情報の発信や、地域の施設・機関と連携した子育て支援を心がけている。 未就園児への対応や、園庭開放を行っている。 安心して悩みを相談できる、子育て相談の場を提供している。 告知情報媒体など

6-2 未就園児への対応を行っているか	
内 容	計画、案内が地域に知らされている。 意義を理解し、実施している。 目的や使命を教職員に伝えている。 子どもの状況に応じた対応を心がけ、保護者ニーズを把握している。 子ども同士に限らず、保護者同士の交流にも心がけている。 告知情報媒体など

6-3 預かり保育を適正に実施しているか	
内 容	子どもの一日の生活を考慮し、施設や設備などの環境を整えている。 子どもが長時間過ごすことができるよう、生活リズムに配慮し、保育内容や方法を工夫している。 担当者とはほかの教職員の協力体制や、情報交換を心がけている。 預かり保育を利用する保護者との緊密な連携を心がけている。 正規の教育時間内の活動に、支障のない範囲で行っている。 預かり保育日誌 園案内

幼稚園機能の拡大

6-4 実習生の研修の場の提供を適切に行っているか	
内 容	実習生の受け入れ体制を整備している。
	実習生受け入れの意義を、教職員間で共通理解している。
	実習生には、事前研修、オリエンテーションなどを行っている。
	幼児教育の大切さや、園の方針・園児とのかかわり方の基本などを知らせている。
	養成校と連携し、情報交換を心がけている。
研修リスト 実習生の保育日誌 実習生心得	

6-5 情報公開を適正に行っているか	
内 容	私学法や設置基準で定められた園の情報を、わかりやすく情報公開するように努めている。
	ホームページなどの電子媒体や掲示板、手紙などを利用し、広く園の方針・活動を地域に知らせている。
	園便りや、クラス便りの定期的な発行など、保護者を対象として情報の提供を行っている。
	保護者や地域の人などに、園の活動や地域における幼児教育のセンターとしての活動についての情報公開をしている。
	自己点検・自己評価の結果についての情報公開を行っている。

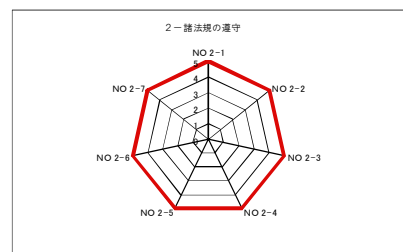
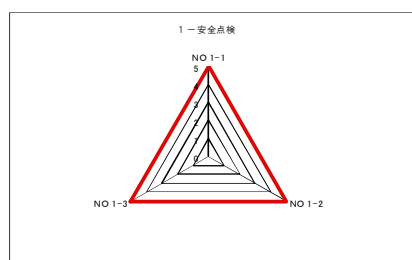
幼稚園管理に関する自己評価

安全点検

1-1 園児の受け取り、引き渡しに関する安全の確認がなされているか	
内 容	園児の受け取り、引き渡しの手順が定められている。
	教職員間で手順や方法について、定期的に確認し、保護者にも周知している。
	父母でない者への引き渡しのルールがあり、周知されている。
	子どものその日の健康状況などを見て、確認している。
	子どもの受け取り、引き渡し場所（バス通園・直接園）の安全を確認している。
受け渡しの手順マニュアル（フローチャート）	

1-2 施設・設備、遊具に対する安全対策ができているか	
内 容	職員ひとりひとりに、危険・安全について意識を高めている。
	点検リスト、点検簿があり、定期的に記録されている。
	複数の人による点検を実施している。
	不備が見つかった場合、緊急度を考慮して対応している。
	整備点検資格のある人や、業者による点検や指導を受けている。
点検記録簿・マニュアル	

1-3 不審者への対応がなされているか	
内 容	日常から子どもへの、啓蒙活動をしている。
	不審者対応マニュアルがある。
	不審者に対応した施設、設備などの整備を行っている。
	不審者対応マニュアルに対応した、避難誘導訓練を行っている。
	子ども・職員・保護者対象に、地域の警察など関係機関と協力して、防犯教育を行っている。
不審者対応マニュアル 監視カメラ 不審者対応のための防具類 緊急連絡の設備方法	



緒法規の遵守

2-1 学校保健法、伝染病予防法に対応しているか	
内 容	伝染病、衛生管理などの対応マニュアルがある。 消毒、せっけん、乾燥機など設備の充実を図っている。園医、保健所などと連携を図っている。 伝染病などの発生状況を保護者に知らせ、予防・早期発見に努めている。 子どもも教職員も、決められた予防接種をきちんと受け、また、それを把握している。
2-2 健康診断を実施しているか	
内 容	子どもの健康診断を定期的実施している。 子どもの健康診断の結果は、保護者に知らせている。 診断の上、気になる子がいたら、園医・教職員・家庭と連携を図っている。 健康診断を子どもの健康な発達のために生かしている。 教職員の健康診断を毎年実施している。子どもの健康の記録・教職員の健康診断の記録
2-3 消防法に対応しているか	
内 容	消防計画、避難訓練などの届け出を年2回以上行い、消火訓練、通報訓練をしている。 自衛消防隊組織について教職員に周知し、それぞれの役割を理解している。 子どもに防災の意識や避難器具などの役割を知らせている。 消防署など、地域の機関との連携を図っている。 避難訓練の際、緊急時の対応マニュアルを確認している。 消防計画 消防署への届出
2-4 労働基準法に対応しているか	
内 容	法改正に応じて、就業規則および関連協定が整備され、遵守されている。 新しい規則に対応した就業規則および関連協定の届出がなされている。 労働協定・就業規則・給与規定、旅費規程、履歴書、雇用契約書、成績証明書、免許証の写しなどが整理保管されている。 教職員が必要な書類を閲覧でき、また内容について周知する機会を設けている。 常に職員の労働環境について配慮している。 就業規則 諸規定 労働基準局への届出 教職員履歴書つづり 勤務時間管理
2-5 道路交通法に対応しているか	
内 容	園車両や教職員車両の任意保険加入状況および更新時の内容を確認している。 定期的に安全教育や、話し合いを実施している。 定期的に車両の整備状況を確認している。 事故の際の対応手順は、定められたマニュアルがある。 園周辺の交通安全には、特に配慮している。 バス運行マニュアル・運行記録 地図 安全運行の保護者への周知 保険契約
2-6 保護者、園児の個人情報の管理が適切になされているか	
内 容	個人情報保護のルール、マニュアルがある。 個人情報保護のルールは、教職員に理解され共有されている。 個人情報保護のルールは、保護者に知らされている。 問題があったときの対応、処理方法が定められている。 教職員に、職務上知りえた情報の守秘義務の確認がなされている。 個人情報保護規定（保護者にも配布）またはマニュアル
2-7 虐待防止などの対策、対応がなされているか	
内 容	虐待の発見や防止のための研修や話し合いが行われ、教職員の共通理解がなされている。 発見や疑念をもった場合の対応方法のマニュアルがある。 関連施設との連携を図っている。 保護者にも虐待防止についての説明がなされている。 普段から子どもの様子や変化に注意を払っている。 視診・対応マニュアル 虐待防止に関する話し合い記録

リスク対応

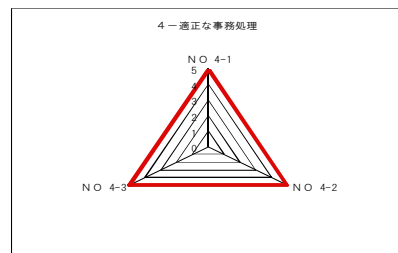
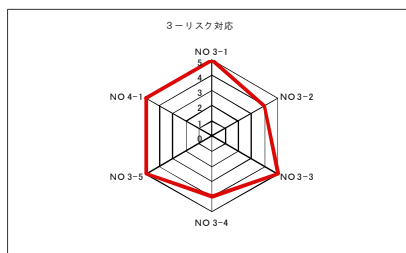
3-1 任意保険の確認を行っているか	
内 容	賠償、傷害、火災、自動車保険に加入している。 更新時には、賠償内容の説明を受け、補償額の確認をしている。 教職員、保護者に保険内容を周知している。 園児ひとりひとりが傷害保険に加入している。 常に園の抱えているリスクをイメージして、保険を考えている。
3-2 事故予防および事故発生時の対応手段が整っているか	
内 容	事故の危険がある場所をチェックし、改善に努めている。 事故発生時の対応マニュアルが作成されていて、保護者に周知されている。 教職員間で事故発生時の対応の仕方や分担の話し合いがなされ、連携のとれる体制が作られている。 保護者へ、事故の経緯・対応や改善策が説明されている。 事故対応後は、速やかに問題点を明らかにし、改善策を講じている。 事故記録簿・報告書
3-3 社会的事件からの学習、対応がなされているか	
内 容	子どもに関連する事件・事故の情報収集を全教職員が行っている。 収集した情報にもとづき、教職員間で問題を把握、共有し、対応策を講じている。 関連情報や対応策を保護者に説明している。 地域や保護者との連携を図っている。 子どもたちに安全教育を施している。
3-4 大災害を想定した危機管理体制がとられているか	
内 容	大きな災害、事故などが起こった際の教職員の行動マニュアルが作成され、話し合いが行われている。 災害を想定し、定期的な避難訓練などを行っている。 さまざまな事故、災害などを想定し、非常時の降園方法、避難場所などが保護者に周知されている。 災害時に対応した、食料、水などの備蓄をしている。 災害時の対応マニュアル
3-5 コンピューター・インターネットの安全管理がなされているか	
内 容	コンピューターの故障、ウィルス対応のためのバックアップ対策がしてある。 コンピューターの盗難、廃棄の際の情報管理がなされている。 ホームページの管理は定期的に決められた人がチェックしている。 コンピューター本体、重要なデータなどは、厳重に管理している。 個人情報ファイルには、必ずパスワードを設定している。 バックアップ ウィルス対応ソフト 更新 情報流失

適正な事務処理

4-1 園の重要書類の管理がなされているか	
内 容	責任者を決め、重要書類の保管、管理が正しく行われている。 災害などでの、緊急持ち出しが可能なように整理されている。 書類は定期的に確認され、決められた手段で処分されている。 重要書類は、施錠できる場所に保管されている。 持ち出しが必要な場合、持ち出しのルールや手順が決められている。
4-2 必要な書類や、公文書などの処理が適正に行われているか	
内 容	公文書の受信・発信簿が整理されている。 公文書受付時の処理担当者が決められている。 必要な公文書は教職員に周知されている。 必要な書類が整備され、正しく更新されている。 諸規定・保育計画やマニュアルなどは定められた場所に保管されている。 公文書つづり 園則・寄付行為・就業規則・給与規定・旅費規程・経理規定・自衛消防計画・車両運行規定など

適正な事務処理

4-3 園の情報公開が適正に行われているか	
内 容	保護者などから情報公開請求があった場合、法に定められた内容に従い公開している。
	保護者などから情報公開請求があった場合、手続きや対応が決められている。
	公開された情報が、わかりやすい情報かどうか保護者に確認している。
	情報公開すべき書類などについては、常に整理されている。
	責任者を決め、保管、管理が正しく行われている。
備 考	情報公開のルール、財産目録、貸借対照表、収支計算書および事業報告書など （私学法）



食 事

5-1 外搬給食における安全衛生対策がなされているか	
内 容	献立表や実際の献立（現物、写真など）を知らせている。
	業者と定期的に意見交換を行ったり、現状の報告や希望を伝えている。
	外搬業者を選択した園の考え方や、調理状況を保護者に伝えている。
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。
備 考	献立表 委託契約書

5-2 お弁当における安全衛生対策がなされているか	
内 容	お弁当の保管場所に留意し、適切に管理している。
	子どものお弁当に注意を払い、喫食状況を把握している。
	保護者にバランスのとれたメニューや、食育についての情報提供を行っている。
	子どものアレルギー状況を把握し、適切に対応している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「教員 自己評価・詳細」「園長・主任 自己評価」における総合的な評価は「AまたはA～B」と評価し、教員全員が共通認識した。「幼稚園運営の自己評価」並びに「幼稚園管理に関する自己評価」は、昨年の2010年度より自己評価項目に新たに加え、年度末にチェックを行った。概ね、5段階評価の4～5の自己評価とした。

尚、本園教員経験年数により、その共通意識の若干の意識の差はみられるが、これは教諭経験を積み重ねることにより、意識差は解消されるものとみなし総合的判断を妥当なものと認識するものである。

年度当初（2011年度）に「建学の精神」加えて園長より「2011年度・教育指針」を基に、担任教諭が「学級経営案」また学年教諭間において、それぞれ「学年目標」を設定した。これにより、取りくむべき教育目標・運営目標について、全教職員が共通理解し指標とした。

そして、教員それぞれが、学期末また日常的に自己評価を行い、取り組み状況を意識・確認したことにより、本園の教育内容がより推進され、教員の資質向上につながった。今後も継続して自己評価を行うことが重要であることを教員一同が共通理解し、努力研鑽に励む姿勢を位置づけることができた。

教員自己評価における特記事項

教員自己評価については、各人の教員経験により共通意識の差異は自ずと生じるが、幼稚園教務体制として教員への指導を徹底し、且つ実践する必要性があったことを深く省みるところである。特に新任教諭については、指導の徹底を図り幼児の発達成長はもとより、充実したクラス運営を目指したが、結果的に保護者の信頼を得る状況になかったと認識するものである。今後は、教員の徹底した指導はもとより教員資質向上向けの具体的研修内容及び研修時間を費やす必要があると認識するところである。前述の「自己評価」等における加筆事項として特別に記すものである。

5. 今後取り組むべき課題

各項目のより達成度を高めるよう、今後（2012年度以降）において具体的な対応やその具現化に向けて努力することを第一の課題とした。また、それぞれの領域（各項目）の連携的な指導・援助が重要であり、特に「人間関係」「異年齢児活動」を重点的課題とすることを共通認識した。

幼稚園教育の本意とする「子育て支援・援助・指導」は、もちろんのこと併せて社会的状況を鑑み「子育て支援」の両面から、幼児の教育的環境を調える事を重点課題とした。また、2012年度より預かり保育について時間延長を実施することにより、幼児が長時間に及び幼稚園で生活することについて環境を整える必然を感じるところである。併せて、預かり保育では、異年齢児による教育活動が主となることより、通常の教育活動と並行して、本園独自の「預かり保育教育内容」を考察することを緊急の課題と認識する。

さらに幼稚園教育活動における幼児の人間関係の中で「協同性＝友だち（子ども同士）」と話し合う中でのトラブルや意見の違いを乗り越える力、さらに友だち（子ども）同士の活動や取り組みの中でのそれぞれの思いに気づく環境や指導と援助のあり方を真摯に見直し、それを見守る教員の姿勢、指導力と援助法、並びに継続して取りくめる環境や家庭との連携の在り方について調査、研究そして努力研鑽に励むことを課題とした。

今後、平成20年幼稚園新教育要領の改編による指導計画の作成のために、現在までのものに修正または訂正、加筆を加え、本園教育課程・指導計画としていたが、今後は上記の内容を含め十分に幼稚園をとりまく環境や子どもの実態に即した指導計画の編纂に取りくむことを課題とした。

6. 学校関係者の評価 6-1

学校関係者（並びに学校関係者評価委員会）における意見・評価については、2012年2月27日付これを依頼し、3月8日までに集約都合によりその意見・評価を求めた。特に指摘すべき事項、また緊急な課題とすべき事項はなく、自己評価は妥当と認められているものと認識する。下記（次ページ）にその意見内容を記す。尚、学校関係者は、本園父母会関係者並びに地域関係者諸氏あわせて16名の方を以て成し、意見・評価の提示を依頼した。また、当該年度においては、地域公人の方1名、本園理事会に報告する前段階として理事1名（16名に含む）にこれを依頼した。学校関係者の名列はこれを非公開とする。

A 委員

園に何う度にも子ども達が伸び伸びと遊び、活動している姿を見て、くずは青葉幼稚園に通わせてよかったと常に感じていた。先生方が、高い目標を持ち熱心に指導していただいているからと実感する。

B 委員

まず、学年ごとの目標が細かく設定されているのに驚きました。目標がはっきり明記されているので園の教育方針、取り組みがよくわかりました。担任以外、他のクラスの子どもの様子などについての話し合いの場があり、園全体で個々の子ども達を理解してくれており、安心して幼稚園に通わすことができます。衛生面、安全面でもしっかり管理がされており、先生方も徹底しておられるのでその点についても安心できます。

C 委員

きちんと教育目標にそって指導していただいていると感じました。先生方が共通して子どものことを知ってもらっているということは親として安心できます。

D 委員

明るく伸び伸びした幼児の育成を目指されていることに共感しました。園児への教育目標を設定し、反省会を開き課題を確認、改善されているのは素晴らしいと思います。園児のみならず、保護者の意見への配慮を感じ、すごいことだと思いました。（洋式トイレ改修、駐車場拡張等）

E 委員

保育内容が細かく記されていて保護者にはとてもわかりやすく先生方の間で子どもの情報交換がしっかりと行われ、共通理解・発達の確認がなされていることに安心して子どもを預けられると感じました。今後取り組むべき課題の「人間関係」においては、幼稚園の教育として本当に大切なものだと感じ、願っている私にとって青葉幼稚園に子どもを預けて良かったと改めて強く思いました。衛生面に関しては、強い感染力のある疾病について告知も含め、登園許可等、徹底した対応を願います。

F 委員

教育計画、指導方針を明確にし、先生方が真摯に取り組まれていることを感じました。目標もほぼ達成していると評価されているのは素晴らしいと思います。数少ない評価Bを挙げていらした「家庭との連携」につきましては、周囲の保護者の方からも意見を耳にすることがあります。実際、私の家庭と園との連携には、大変満足し感謝しておりますが、そう感じておられないご家庭もあるのだと認識しております。今後、評価Aになられることを期待しております。

6. 学校関係者の評価 6-2

G 委員

まず、くずは青葉幼稚園ホームページの情報量の多さに驚きました。これだけ公開するということは運営に自信があるのだろうという想いで入園を決めました。教育目標、指針が明確に公開されていて子どもを預けていても安心できていると感じています。特に「園日誌」は、子ども達の日中の様子がよくわかり、祖父母にも好評です。一方で下着が見えるような写真は載せないほうがいいのではないかと思います。世の中いろんな人が居ますので。入園前は、ただ楽しいだけの幼稚園というイメージしかなかったのですが、教育目標が細かく設定されていることがわかりました。生活、遊び、言葉、表現、異年齢活動、学級ごとの経営案まで公開されていて、先生方はこのような考えで日々、子ども達と接していただいているのだなぁと親の私も勉強になります。

教員自己評価については、先生方がお互いに情報交換をされ、協力しあってより良い方向を目指していることがよくわかりました。先生方は他クラスの子とも触れ合いが多く持たれていることが、日頃の子どもの話からよくわかります。個人情報の管理は適切に行われていると思いますが、名前などのクラス名簿ぐらいは、新年度の初めに配布してもよいのではと思います。新しいクラスとなり子どもはもちろん親も不安です。少しでも新しいクラスの情報を得たいものです。ご一考、よろしくお願いします。

H 委員

まず、教育目標が項目、時期ともにとても細かく掲げられていることに驚き、先生方の熱意を感じました。私は、「異年齢活動」を青葉幼稚園の大きな特色だと思っているのですが、年間を通して様々な取り組みがあり、だからこそ学年を越えて園児達が仲良しで、幼稚園が一体になっているのだなぁと思いました。また、異年齢活動の時によくわかることですが、先生方が子どもたちの情報を共有して下さっていることに安心しますし、園で何かあった時には先生方がバス停であったり電話だったりできちんと伝えてくださることに感謝しています。また、預かり保育に関しては、他園では預かり保育専門の先生がいらっしゃることが多いのに園の先生が携わって下さっていることを本当にありがたく思っています。

I 委員

全体的に目標が細かく分類され、詳細に評価されているのでわかりやすい。今回、改めて学校評価に目を通してみて、いつも子どもから伝え聞くことや担任の先生からご連絡いただくことを振り返っても記載されている教育方針に則った指導を取り組みされていることがわかった。我が家は、一人っ子で普段、なかなか上や下の年齢のお子さんと触れ合う機会が少なく、異年齢児保育の時間を楽しみにしており、親としても貴重な機会と思っている。こちらについても取り組みや目標がわかりやすく記載されていた。今後も力をいれたい。

J 委員 [在・卒園児保護者関係者に非ず。地域公人]

まずは、自己評価の項目の多さに驚いた次第であるが、私の目から見て、こうした評価の各項目が園児にしてどのように成されているか、という視点から意見する。

1. 秋に行われている運動会では、園児の主体性や責任感、当事者意識を育む教育が日頃から施されていることが見て取れた。例えば、各競争や演目の前に、教員の指導のもと、「次は〇〇競争です。」などと、園児2人一組によるマイクでのアナウンスをさせることで、園児に主体的にこの行事に取り組んでいることを自覚させるとともに、他の園児には、大きな舞台で他の園児の話を聞く、という貴重な機会を創出している。
2. また、年長と年少が一緒にダンスをする演目があった。これは、日ごろは、同い年の組単位での行動が多い中、こうした機会にあえて学年の違う園児同士を組ませることで、年長にはいい意味で年少の面倒を見なければならないという意識が芽生え、年少には、少し年上の園児と触れ合うことで、身近に目標を持てるという教育効果があったものと思われる。
3. 園の運動会でありながら、園の卒業生（小学生）による徒競争の演目もあり、主に、現園児の兄姉が多かったと思われるが、郷土意識を醸成するのに、非常に良い取り組みである。園児にとっても、卒業生や兄弟から園の伝統や歴史を感じられるよい機会となっている。節分行事でも、園の教育的観点が見られた。鬼を登場させ、悪い鬼をやっつけるために豆をまき、鬼は退散するという一般的な節分行事が多いが、ここでは、導入部分において、教員が園児に対し、「みんなの、お父さんお母さんの言うことを聞けない心や、弱い者いじめをする心が、鬼になって出てくるんだよ。鬼をやっつけて、みんなの中にある弱い心を追い払おうね」などと指導した上で、鬼を登場させるなど、表層的な教育とは一線を画している。
4. 鬼の退場の場面においても、退治の対象であり、散々豆を撒いた鬼に対して、終わった後はきちんと御礼を言うように指導していた。日頃から礼節や節度を大切にする教育が成されていることの証であると思われる。
5. 最後に園長の人間性にも触れておきたい。園長は地域にあっては消防団員として地域を守る活動をされ、また奉仕団体に所属され奉仕活動を行い、東日本大震災においては被災地支援にあたるなど、公私にわたり地域貢献をされている。こうした人間性は、園の教育指導方針にも自ずと映し出されるものと思う。教員に対する指導、また保護者の意見をよく聴き、それを日常や行事の中で活かしているからこそ、記載のようなきめ細かい指導・園運営を行うことができていると思う。さらには、日常はもちろん、いかなる行事等においても安全面に気を配り、教員の配置等にも配慮されている。

以上、私の経験から、多少独断的に勘案すると、本報告書の自己評価中、どの項目もトップクラスにあると考えられるが、とりわけA教育方針・指導計画、C環境、D言葉、E人間関係、F研修、G家庭との連携、H表現、J教育内容、K保護者支援、L地域連携、O人事管理については、地域に冠たる教育機関として、特筆すべきものがあることは間違いない。

6. 学校関係者の評価 6-3

K委員

評価を読んで、担任の先生だけではなく、他のクラスの先生方とも子どもの情報を共有していると知り、安心して預けることが出来ます。学校伝染病の感染者状況の公開についてインフルエンザの罹患状況以外にも水疱瘡等の強い感染力のある病気についても公開してほしい。

L委員

くずは青葉幼稚園の日常の取り組み方には感心する。教育目標、教育指針、研修の取り組み。家庭・地域との連携、安全管理、保育内容の確認、苦情解決のための取り組みの工夫、各学年の目標等 全てにおいて全職員の幼児保育への取り組み方を高く評価する。表面だけの見栄えの保育を取り入れる傾向にある幼稚園もある中でじっくりと確実な取り組み方で運営されている姿勢は地域の卒園児保護者の方に多く理解されている。それは、「一生懸命な姿勢」が地域に伝わっている何よりの証であると思う。

M委員

一年間、父母会役員をさせていただき、園長先生はじめ先生方の子どもに対する熱い思いを改めて感じる事ができました。私が、気になったのは給食の出し方です。以前、会議で園に伺ったとき、特別給食のオムライスの容器をみておどろきました。これでは、スーパーのお惣菜と一緒にではないかと、ひな祭りのちらし寿司についても同じです。食育は大事ですが、食べ物を入れる器も食事をする時の大事な一部です。予算との兼ね合いもあるかと思いますが、一度お考えいただけないでしょうか。

N委員

どの項目も評価は妥当であると感じた。家庭との連携、保護者支援については十分と感じるが、まだ、不十分な面もあったと省みられている点、とても向上心を感じた。教育内容(環境構成、行事等)について高評価も妥当であり、日頃より子ども達の様々な体験をさせ成長させる環境整備・行事には感心させられている。この素晴らしい幼稚園が末永く在られるよう、財務管理をしっかりと行い経営していただきたい。

O委員

各項目ごとに「昨年同様」という内容でなく、年度が変わるたびに保育目標を新たに設定するなど、先生方の保育に対する意識の高さに感服しました。また、異年齢活動の取り組みでは、自分より小さいお友だちと触れ合う機会をたくさん設定されており、子どもの輪が広がって感受性の豊かな年代には、大切なことだと思うので子どもにはいい影響をあたえ合っていると思う。異年齢活動に力をいれていただいていることはありがたく思います。

7. 財務状況

平成23年度財務状況は、学費収入において平成22年度対比／学籍15名の園児数増により、学費収入は増額となった。しかし、平成21年度より継続して改修工事を施行し平成23年度においても防水改修工事、駐車場改修拡張工事、洋式トイレ設置改修工事、その他の各種改修工事を実施した。これにより支出が拡大し、財務状況は厳しい状態の決算となった。今後も従来に増して経費節減と教育効果のある支出を精査し、幼稚園財務運営の安定を図るべきと認識する。

尚、平成24年度は15名程度の学籍減少が見込まれ、前述の通り財務状況は厳しくなり、経費節減は必須となる。

平成23年度財務状況については、決算関係計算書類一式が調い次第、これを公開する。[2012年5月予定]

平成23年度の財務状況については、監査法人・公認会計士より適正に運営されていると認められた。

2011年度／平成23年度

くずは青葉幼稚園 自己評価・学校評価について以上の通り、公開します。

2012年4月1日

学校法人山口学園
くずは青葉幼稚園
園長 山口尚志



以上、本書は29ページを以て成し、文責は園長・山口尚志であることを記す

学校法人山口学園

くずは青葉幼稚園

〒579-1102 枚方市北楠葉町38番1号

電話 072-857-8221 FAX 072-856-5944

<http://www.k-aoba.ed.jp/>

Mail address info@k-aoba.ed.jp

2012年4月1日 発行